

## 移民国家創成塾

坂中英徳

私は2005年以来、日本と世界の若者をひきつける国家ビジョンを立案したいとの思いから、日本の精神風土に根ざした移民国家の構想を練ってきた。ここに完成した日本の未来構想が、超少子化と超高齢化の人口問題に移民立国で立ち向かい、日本独自の移民政策に基づき50年間で移民1000万人を計画的に入れるものだ。

これは新国家の建設である。世界の頂点の移民国家の形成をめざす。日本の歴史はじまって以来の移民開国であり、平成の移民革命として日本の歴史に刻まれるだろう。

このような千年に一回の国家的大事業は、幕末の吉田松陰、高杉晋作の如き、20代・30代の革命の志士が現れないと成功しない。移民国家の建国は若き精鋭たちの双肩にかかっている。

そのように考えた私は2010年7月、急がないと日本が危ないと直感し、若者が移民政策について勉強する場である「移民国家創成塾」を開設した。これまで40回を超える勉強会を開催してきた。命が尽きるまで移民国家創成塾を主宰し、移民政策の専門家を育てる。

移民国家創成塾で学んだ俊英たちが移民革命のリーダーとして活躍する時代は近いと予想している。

以下は、2014年6月から2015年4月までの移民国家創成塾の活動状況報告である。

### (1) 移民国家創成塾(第1回)

2014年6月12日、移民国家創成塾を開催。1年ぶりの勉強会であったが、参加者の心意気を感じた。これから毎月塾を開くことを決めた。冒頭のあいさつで塾生に檄を飛ばした。

〈移民国家創成塾は若者が移民政策のあり方を議論する道場である。われこそ日本の新しい歴史をつくるという気概を持つ人物の出現を期待する。近く移民政策論争が始まり、坂中塾出身の移民政策の専門家が各方面で活躍する時代が到来するだろう。〉

### (2) 移民国家創成塾(第2回)

6月18日、移民国家創成塾を開催。2014年の国会で成立した入管法改正の問題点、世界の主要民族の国民性など多方面の問題について議論が行われた。お互いの人間関係・

信頼関係が深まった。

### (3) 移民国家創成塾(第3回)

7月9日、移民国家創成塾を開催。「日本人妻・北朝鮮残留日本人の帰国問題」、「日系ブラジル人の入国の経緯と今後の課題」、「日本は2・07の出生率を回復できるのか」など、当面する諸問題について議論を戦わせた。

### (4) 移民国家創成塾(第4回)

7月23日、移民国家創成塾を開催。冒頭、坂中から、「移民政策研究10年の歩み」を語った。次に、「移民政策と宗教の関係」「移民政策と言語政策」「レヴィーストロース人類学の現代的意義」などについて出席者の間で討論した。移民受け入れの本質に迫る議論ができた。

### (5) 移民国家創成塾(第5回)

8月6日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、最近、移民政策をめぐる世の中の空気が一変したこと、時代の風を受けてわれわれは何をなすべきかについて語った。引き続き、「ドイツの移民政策」「移民政策と日本語教育」「日系ブラジル人の子供の教育問題」のテーマで討論した。具体的なテーマに即した実りある議論ができた。

### (6) 移民国家創成塾(第6回)

8月20日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、「移民の法的地位の安定化と入管法の運用のあり方」、「大量移民時代の日本語教育のあり方」について問題提起を行い、続いて出席者全員で突っ込んだ議論を行った。気がついたら3時間ぶっ続けで議論していた。

### (7) 移民国家創成塾(第7回)

9月24日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、「移民国家創成塾が目ざすもの」、「最近の移民政策の動向」などについて語った。次に、「日本版奴隷制度と移民政策の関係」「反日国家からの移民の規制方法」「移民政策と国籍政策の一貫性の必要性」などの問題について出席者の間で討論した。

移民政策の本質問題についての参加者の理解が深まったと感じる。日本の将来を担う人

材が育ってきた。

#### (8) 移民国家創成塾(第8回)

10月29日、移民国家創成塾を開催。坂中から冒頭、最新作の『新版 日本型移民国家への道』(東信堂)を活用して、政治家、官僚、経済人など日本のキーパーソンを動かす決意を表明した。

次に、酒井英禎移民政策研究所主任研究員による「移民政策と日本文化・日本語の関係」に関する問題提起を受け、参加者の間で活発な議論が行われた。移民受け入れの成否がかかわる問題について参加者の理解が得られた。

#### (9) 移民国家創成塾(第9回)

11月26日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、『WiLL』(2015年1月号)に登載された小論文・『移民国家で世界の頂点をめざす』をもって移民国家大論争が開始されたこと、近著の『新版 日本型移民国家への道』を使って政治家を動かす決意であることを述べた。

引き続き、大重史朗氏による「南米系日系人集住都市における子どもの教育と多文化共生の課題」の表題のスピーチを受けて、移民二世に対する日本語教育の重要性、プロの日本語教師の育成の必要性などについて参加者の間で議論を行った。

#### (10) 移民国家創成塾(第10回)

2015年1月26日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、移民政策研究所のホームページの「オピニオン」に投稿した論文・「移民政策のあり方について」をテキストに、「日本存亡の危機を救う移民政策」「移民革命と社会革命」「大学革命」「移民法制」「人類共同体思想の世界史的意義」について見解を披露した。そのうえで、「2015年を移民政策大論争の決着をつける年にする」と、新年の抱負を語った。

和室でひざを突き合わせて真剣に討論した。幕末の吉田松陰が講義した松下村塾を彷彿させるものがあった。

#### (11) 移民国家創成塾(第11回)

2月24日、移民国家創成塾を開催。坂中から冒頭、移民政策研究所ホームページの「オピニオン」に投稿した論文・『国民は移民亡国論を支持しない』に基づき、「曾野綾子氏の移民政策を批判する」「WiLL」に載った坂中移民興国論」「思慮深い国民は移民排外派

にくみしない」などのテーマで話をした。

続いて、出席者の間で、人種・民族・宗教・言語と移民政策の関係について世界的な視野から議論を戦わせた。移民政策と密接に関係する民族問題・文化摩擦問題などについて中身の濃い議論ができた。

#### (12) 移民国家創成塾(第12回)

3月31日、移民国家創成塾を開催。はじめに坂中から、最近の移民政策をめぐる動向について説明。続いて、移民政策研究所ホームページの「オピニオン」に投稿した論文・「移民時代の日本語と日本語教育のあり方」と村崎加代子著『間接法テーチングマニュアル—英語を使って日本語を教えるコツ』をたたき台にして参加者で討論した。有意義な勉強会であった。

「日本語を世界に開かれた言語に発展させること」「移民政策の成否は日本語教育で決まること」「外国人の立場に配慮した日本語教育改革を急ぐこと」「海外において英語あるいは現地語で日本語を教えるシステムを確立すること」「日本語教師を専門職と位置づけ待遇改善を図ること」という点で出席者の認識が一致した。

#### (13) 移民国家創成塾(第13回)

4月21日、移民国家創成塾を開催。坂中から冒頭、朝日新聞が「戦後、移民——日独世論調査」の結果を発表した4月18日の記事(「永住を希望して日本にやってくる外国人を、今後、移民として受け入れることに賛成ですか。反対ですか」の質問に対して移民に賛成が51%。移民に反対が34%)の歴史的意義について説明。

続いて、移民政策研究所ホームページの「オピニオン」に投稿した論文・「日本のジャーナリズムは死んだ」に基づき、「日本のジャーナリズムは移民政策で論陣を張る勇気がないのか」「日本は外圧でしか移民立国を決断できないのか?」「情報革命が日本を移民国家に導く」のテーマで熱弁を振るった。出席者の多くから、「日本は外圧で移民の入国の扉を開くことになる」との意見が述べられた。